

啄木のふるさと『もりおかの短歌』

第九回年間最優秀秀賞決定!

年間最優秀賞(二首)

啄木の生まれし寺の八畳間

座れば夏の

草の香通る

盛岡市 岩館 公子

【受賞者からのコメント】

常光寺を訪ねた夏の日。幼い啄木が育まれたであろう草の香を、風が運んできました。ユートランド姫神からこの寺を経て、藪川へ辿るコースが好きです。春の山桜、外山蕎麦、短角牛の焼肉。美しいふるさとです。

【審査員講評】

盛岡市日戸の常光寺の床の間のある部屋が啄木生誕の間。現在も当時のまま保存されており、作者はその部屋に坐って感慨に耽っているのでしょうか。そこに夏の草の香が通ってきたというのです。詩に趣があり、情感のこもった歌です。(八重嶋)

2月生まれ啄木は、父一禎が和尙を務めた「常光寺」で初めての夏を迎えた。夏草の香りとともに心地よい風は啄木を夢の世界へと誘ったことであろう。無垢な啄木の世界が八畳間に集約されている。(山本玲子)

啄木の生家は曹洞宗・常光寺です。通された八畳間に座り、夏草のにおいと共に吹きとおる風を感じている作者が見えます。寺を訪ねた訳など余計なことには触れず、表現を単純化したことで成功しました。(松田)

情景が鮮明に読み手に伝ってくる歌である。啄木の生まれし寺の八畳間の部屋に座って、ただ啄木を偲んでいただけでなく、夏草の香りがすると詠んだことにより、歌の叙情性が高まり、品格のある歌となっている。(山本豊)

年間優秀賞(二首)

ふるさとの

石割さくら君に見せ

町中の寺へ納骨に行く

福岡県福岡市 六月朔日 光

【受賞者からのコメント】

光栄です。短歌創作歴五十九年になりませんが、啄木短歌の表記法は初めてです。新鮮に感じました。盛岡出身の友人の死に接し、花数の乏しくなると伺います。「石割桜」に託して素直に心の表白を詠ませて頂きました。

【審査員講評】

ふるさとを遠く離れて生活をしてきた君。亡くなつて盛岡の菩提寺に納骨のため訪れたのでしよう。お骨に石割桜を見せてお寺に向つたという。作者の君への思いやりの

報恩寺の

五百羅漢に紛れ込み

知らぬ顔する節分の鬼

青森県八戸市 木立 徹

【受賞者からのコメント】

思いがけず賞をいただくことになり感謝申し上げます。作品では報恩寺の五百羅漢の様々な表情の中に、節分で追いやられた鬼もそこに隠れて反省でもしているように想像をふくらませてみました。盛岡の町は懐の深いやさしさを感じる町でもあります。

【審査員講評】

盛岡の名刹報恩寺に五百羅漢堂があります。五百羅漢の中には誰にも必ず似ている羅漢様がいるということです。そんな中に節分の豆の攻撃を避けて鬼が混じって知ら

啄木のふるさと「もりおかの短歌」事業は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年から実施している事業です。四つの期間(夏の部・秋の部・冬の部・春の部)に分けて募集し、一年間に応募のあった七三八首(一般部門)の中から第九回目となる年間優秀作品が決定いたしました。また、ジュニア部門において、秋の部では「盛岡市立永井小学校」、春の部では「岐阜県美濃加茂市立西中学校」より多くのご投稿をいただきました。書面を通じてお礼申し上げます。

年間奨励賞(二首)

元日の朝仰ぎ見る岩手山

その凜凜しさに

姿勢を正す

盛岡市 中島 久光

【受賞者からのコメント】

いつも見ている岩手山はその季節季節で色々な顔を見せてくれる。雪を戴いた元日の顔は特にその清々しさと凜凜しさに姿勢を正して合掌してしまふ。岩手山は岩手の誇りでもあり心の拠り所でもある。

【審査員講評】

元日の朝に仰ぎ見る岩手山。その凛々としたすまいに、作者は姿勢を正すかという。啄木の歌に「汽車の窓」は正に北にふるさとの山見え来れば襟を正す

三日後の

チャグチャグ馬コのお祭の

幟はためく不来方城址

京都府長岡京市 吉田 正美

【受賞者からのコメント】

昨年の六月に石川啄木記念館を訪れた際、「もりおかの短歌」の作品募集を知りました。夏・秋・春の部で優秀賞に選んでいただき、また、年間奨励賞の受賞と、大変嬉しく思います。次はチャグチャグ馬コのお祭りに合わせて盛岡を訪れたいのです。

【審査員講評】

三日後に控えた「チャグチャグ馬コ」の幟が不来方城址にはためいているという。「チャグチャグ馬コ」は国の無形民俗文化財であり、盛岡市・滝沢市の初夏

すも」があります。心情相似通つところのある歌です。(八重嶋)

北上山地に遮られていた陽の光が瞬く間に岩手山を照らし雪の陰影を刻んでいる。その吹き下ろしは深呼吸を許さないほどに凍りつき心に刺さる。決意も新たに姿勢を正す瞬間が表現されている。(山本玲子)

「元日の朝」の岩手山は、新雪がまばゆかったのでしょうか。その姿は誰の目にも厳かで凜凜しく見えます。「姿勢を正す」気持ちに共感を覚える人は多いことでしょう。

岩手山は、見る位置や時節から様々な表情を見せてくれる山である。元日の朝に見た岩手山に強く感動した作者の心が素直に表現されている歌である。結句の「姿勢を正す」に作者の心柄が偲ばれる。(山本豊)

の風物詩。盛岡城跡公園も啄木歌碑があって有名。二つ相俟っている歌です。(八重嶋)

チャグチャグ馬コの準備はいつ頃から入るのだろうか?三日後にお祭りを控えた際は準備のクライマックスを迎えている頃だろうか。それとは対照的にはためく不来方城址の幟が祭りの前の静けさを感じさせる。(山本玲子)

作者は京都の人。不来方城址は旅程に組み込まれておいたと思われませんが、そこで偶々目にしたチャグチャグ馬コの幟。その祭りが「三日後」という微妙なずれのリアル感が効果的です。

祭りを三日後に控えた不来方城址にはためく幟を表現し、歌に生き生きとしたものが感じられる。チャグチャグ馬コの祭りが、祭りのものを歌にしたものは数多くあるが、祭りの前の様子を歌にしたのが特徴的である。(山本豊)